



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲警告**…取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲注意**…取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲警告

●下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。  
各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。

(1)ペースメーカーなどの体内埋込型機器 (2)人工心肺などの生命維持用機器 (3)装着型の心電計など

### ▲注意

●本体脱落のおそれがあるため、下記事項をお守りください。

- ・取付け前に補強材(躯体)の位置を確認してください。取付け位置に補強材がない場合は、必ず入れてください。
- ・石こうボードなどで補強材(躯体)が見えない場合は、工務店さまに補強材位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどでねじ止め位置に補強材の中心があることを確認してください。
- ・リフォームなどの場合、補強材(躯体)位置が石こうボードで確認できない場合は、石こうボードなどをはがして補強材位置を確認してください。
- ・石こうボードの表側には、補強材(躯体)は取付けないでください。
- ・補強材(躯体)は硬い木材で、虫食いやくされのない24×70mm以上のものを使用し、柱・間柱などに必ず固定してください。
- ・下地材は、必ず下穴をあけてから、ねじ固定してください。
- ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。
- ・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が脱落するおそれがあります。
- ・前面カバー取付け後は、カバーを引っ張って外れないことを確認してください。かん合が甘い場合、前面カバーが脱落するおそれがあります。

### ■取付け上のおお願い

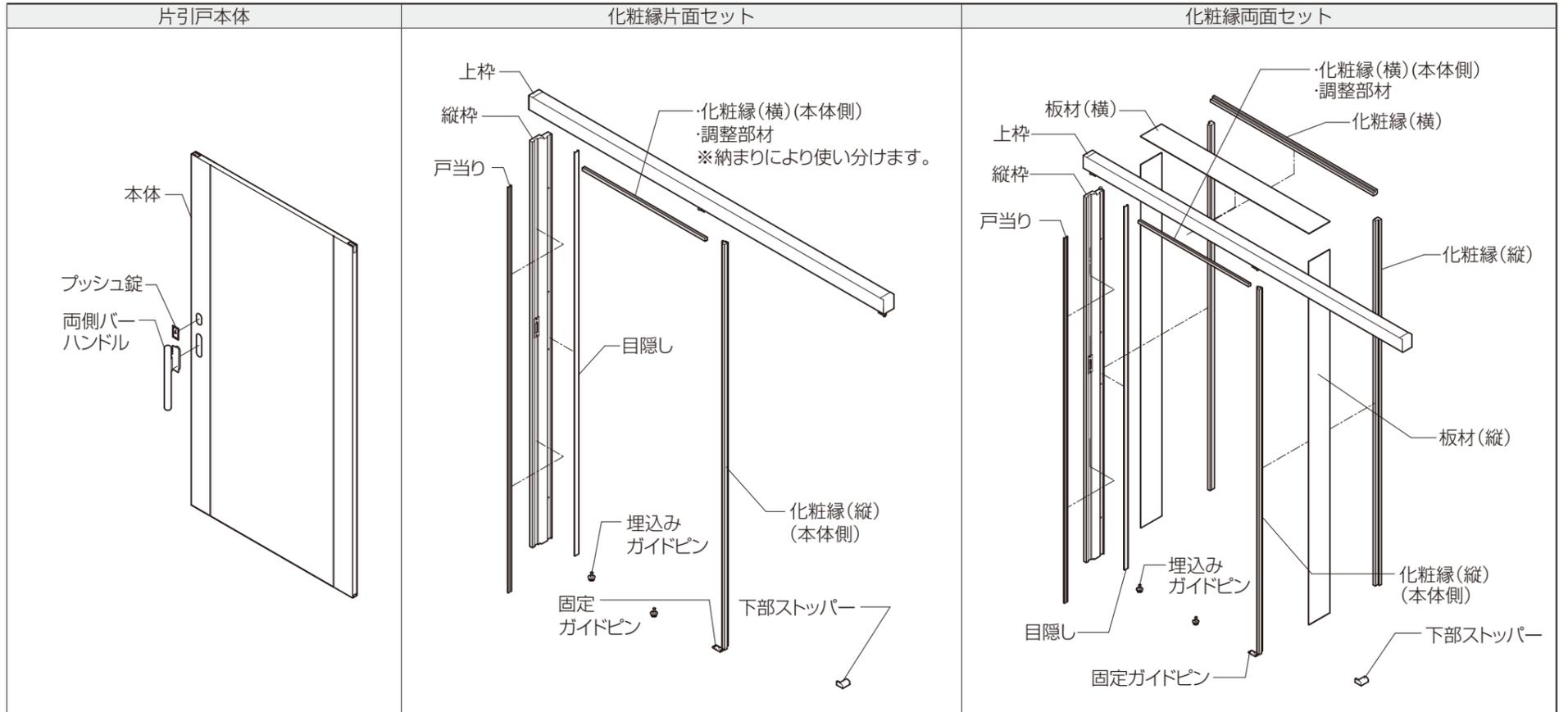
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、キズつかないように取扱ってください。また、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 埋込みガイドピン仕様のため、クッションフロアや弾性のある床には取付けないでください。
- 上レールを開梱状態で現場に置かないでください。ホコリなどが入り、吊車、ソフトモーションの動作不良の原因になります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 枠部材をカットして使用しないでください。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 下地材仮固定の際は水準器などを使用し水平に取付けてください。水平が出ていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。
- 下地材は傾き、ねじれがないように取付けてください。本体吊込み後、すき間、干渉の原因となります。
- 下地材仮固定のねじの頭は、下地材表面から飛び出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
- 取付け前に上レールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 吊車(ソフトモーション付)に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトモーション部品に混入し、作動不良の原因となります。
- 下地材固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
- ガイドピンは本体吊込み時に取付けますので、枠の取付け後大切に保管してください。
- ガイドピンは、取付け順序『5ガイドピンの取付け』通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障が出る原因になります。

## ■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
    - ・直射日光の当たる場所・昼夜などで温度差の激しい場所・湿気の多い場所
  - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

## ■部品・部材の明細

※枠はロックダウン、本体は完成品です。



### ■片引戸本体

名称	入数
本体	1

### ■プッシュ錠セット

名称	入数
プッシュ錠本体	1
錠座カバー (シリンダー錠のみ)	1
皿タッピンねじφ3.5×16 (シリンダー錠のみ)	2
カギ(シリンダー錠のみ)	3
取付け説明書	1

### ■バーハンドルセット

名称	入数
バーハンドル・オス	1
バーハンドル・メス	1
皿小ねじM5×14	2
取付け説明書	1

### ■上枠セット

名称	入数
上レール	1
前面カバー	1
下地材	1
部品セット	1
取付け説明書	1

### ■化粧縁セット

名称	片面	両面
縦枠	1	1
化粧縁(縦)(本体側)	1	1
化粧縁(横)(本体側)	1	1
調整部材	1	1
化粧縁(縦)	-	2
化粧縁(横)	-	1
板材(縦)	-	2
板材(横)	-	1
ポリネートチューブ	-	2

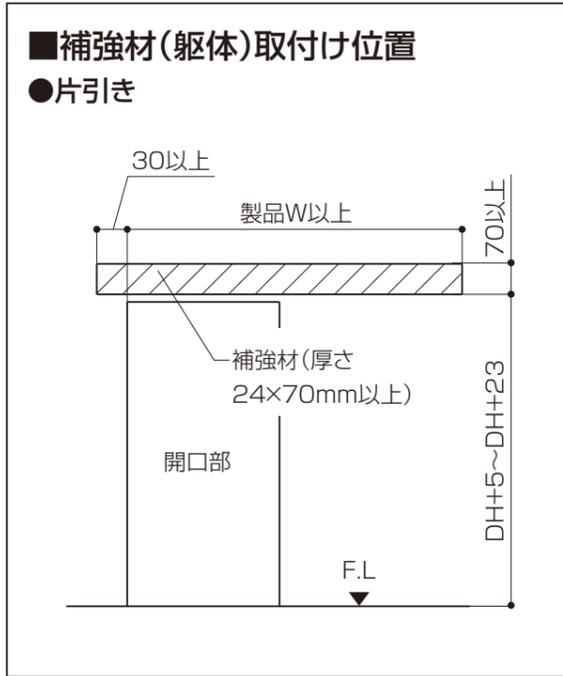
### ■部品セット

名称	入数
上レール取付けねじ (トラスタッピンねじ1種φ4×50)	6
端部ストッパー取付けねじ (なべタッピンねじ2種φ4×45)	4
上レール取付けねじ(平小ねじM4×10)	4
下地材仮固定ねじ(DNねじφ3.8×65)	3
固定ガイドピンセット	1
埋込ガイドピン	2
埋込ガイドピンベース	2
端部ストッパー	2
ソフトモーション受け金具取付けねじ	2
受け金具裏板	1
ソフトモーション受け金具	1
吊車(ソフトモーション付)	1
吊車	1
端部キャップねじ (皿タッピンねじφ3×10)	1
端部キャップL/R	各1
下部ストッパーL/R	各1
縦枠取付けねじ (トラスタッピンねじφ4×50)	6
縦枠上部パッキン	1

■据付け前の準備

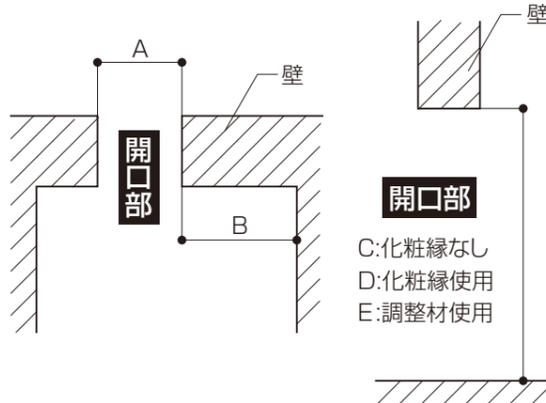
■開口部の作成  
〔室内設置の場合〕

①下地材取付け用の補強材(躯体)を下図にしたがって入れてください。



②開口部を、取付け範囲(a~b)にしたがって作成してください。  
※入隅納まりの場合でも、同じ寸法となります。

■取付け範囲  
【片引き】



お願い  
※開口寸法は、壁を仕上げた状態の寸法としてください。

a) 化粧縁片面セット使用時

	W	DW	A	B
W20	1982	1038	1038	944以上
W22	2182	1138	1138	1044以上
W26	2582	1338	1338	1244以上
特注	W	(W+94)/2	(W+94)/2	(W-94)/2

	H	DH	C	D	E
H20	2030	1973	1978	1970以下	1993
特注	H	H-57	H-52	H-60以下	H-37

b) 化粧縁両面セット使用時

(板材を使用しない場合は、aと同じ範囲です。)

	W	DW	A	B
W20	1982	1038	1044	941以上
W22	2182	1138	1144	1041以上
W26	2582	1338	1344	1241以上
特注	W	(W+94)/2	(W+106)/2	(W-100)/2

	H	DH	C	D	E
H20	2030	1973	1981	1973以下	1996
特注	H	H-57	H-49	H-57以下	H-34

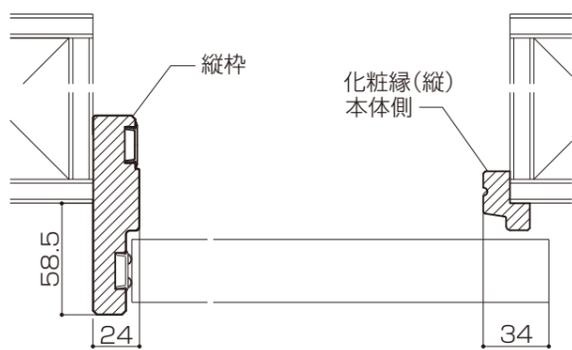
▲注意

商品が脱落するおそれがありますので下記事項をお守りください。

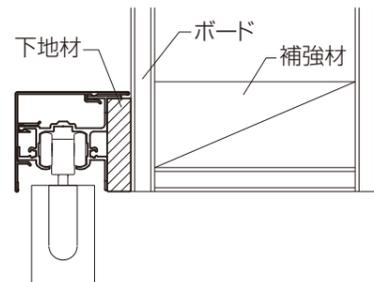
- 指定の位置に、厚さ 24 × 70mm 以上の硬木の補強材(躯体)を設置してください。
- 補強材(躯体)には、虫食い・くされなどのないものを使用してください。
- 補強材(躯体)は、必ず柱・間柱に釘などで固定してください。

■化粧縁片面セット使用納まり例

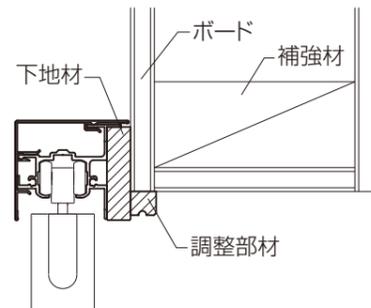
●横断面  
見付け幅：24mm



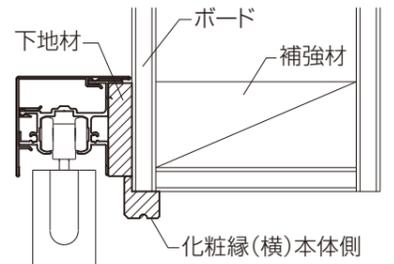
【上部調整部材なし納まり例】  
●縦断面



【上部調整部材使用納まり例】  
●縦断面

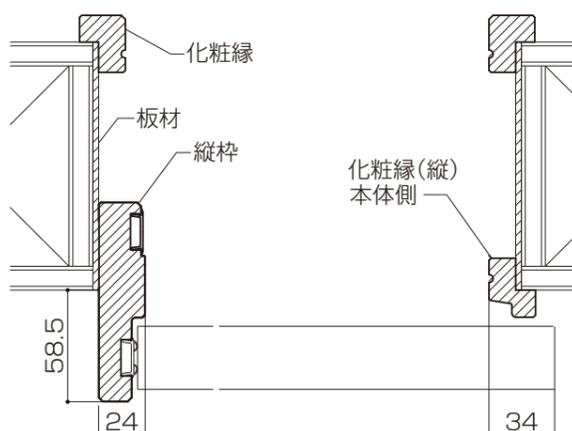


【上部化粧縁使用納まり例】  
●縦断面

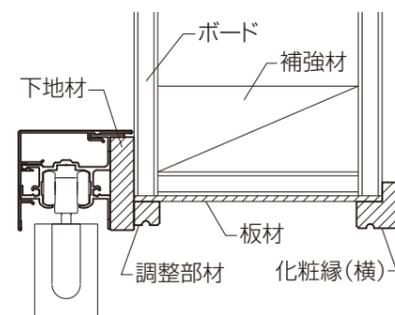


■化粧縁両面セット使用納まり例

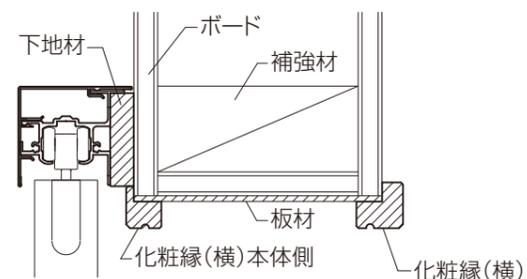
●横断面  
見付け幅：24mm



【上部調整部材使用納まり例】  
●縦断面



【上部化粧縁使用納まり例】  
●縦断面



■取付け順序

1 枠の取付け

5 ガイドピンの取付け

2 前面カバーの取付け

6 本体の吊込み

3 縦枠の取付け

7 部品の取付け

4 化粧縁の取付け

8 ソフトモーションの動作確認

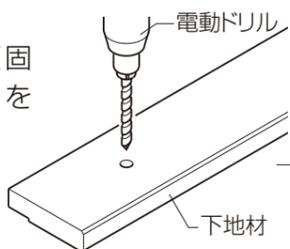
■本体の調整 (10/12 ページ)

- 1 上下調整
- 2 左右調整
- 3 本体の取外し方法
- 4 ガイドピン位置前後調整
- 5 前面カバーの取外し方法
- 6 異常時の対処方法

調整が必要な場合

■1 枠の取付け

①下地材にφ3の仮固定用下穴(貫通穴)を3カ所あけます。

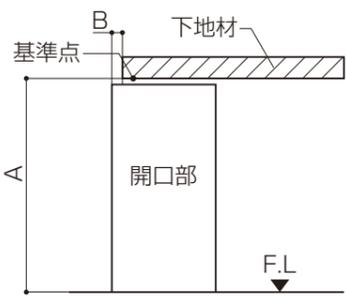


■仮固定用下穴ピッチ



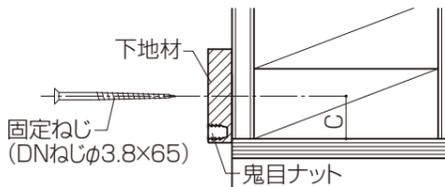
②下地材を指定の取付け位置に、同梱の仮固定ねじ(DNねじφ3.8×65)で水平に取付けてください。

■下地材取付け位置



呼称	A
H20	1978
H特注時	DH+5

納まり	B
化粧縁片面	3
化粧縁両面	6



※C寸法は、8mm以上確保してください。8mm以上確保できない場合は、仮固定ねじの位置をずらすなどして補強材に固定してください。

▲注意

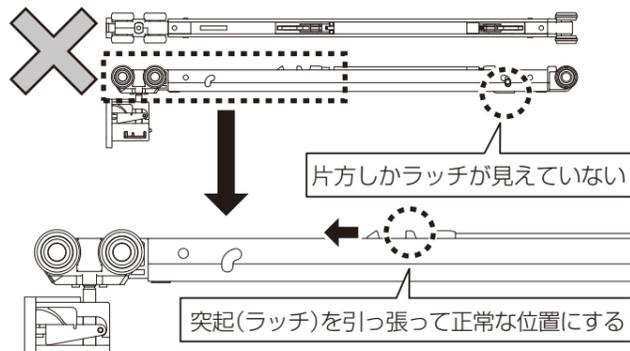
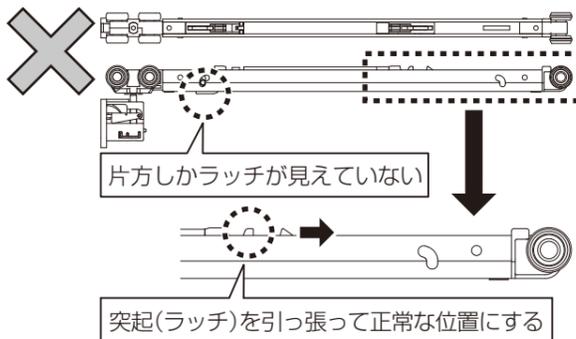
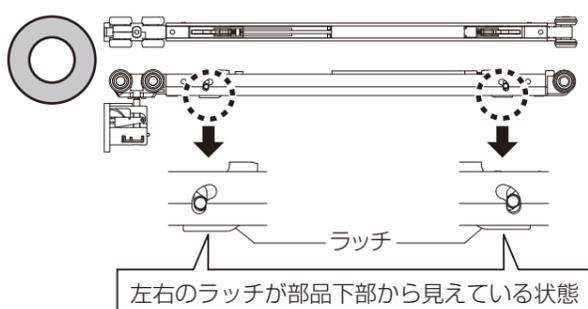
●必ず下地材に下穴をあけてから、ねじを固定してください。ねじが正しく入らず、商品が脱落するおそれがあります。

お願い

※下地材仮固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。  
 ※下地材は水平に取付けてください。水平に取付けていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。

③吊車を上レール端部から下図の通り挿入してください。

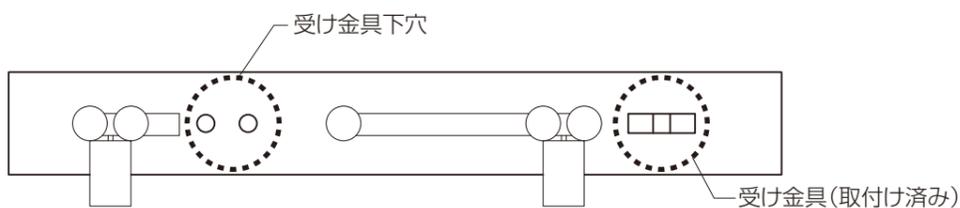
●吊車(ソフトモーション付)のレール挿入前の確認



●吊車の挿入

下図を参照し、挿入向きに注意し上レールに吊車を挿入してください。向きを間違えると正常に開閉操作ができません。

※吊車は左右勝手に関わらず一定の向きに取付けます。



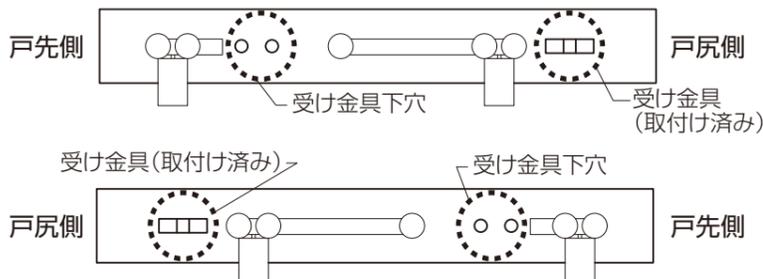
お願い

※吊車(ソフトモーション付)に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。

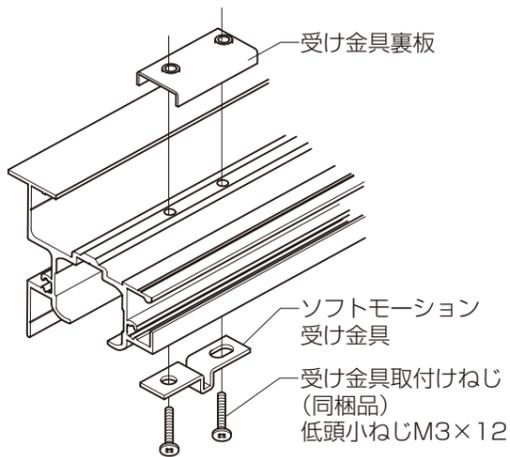


■美和 FN 錠特注の場合

レールに左右勝手が発生します。受け金具が取り付けられている方が戸尻側になります。必ず戸尻側にソフトモーション付吊車を挿入してください。

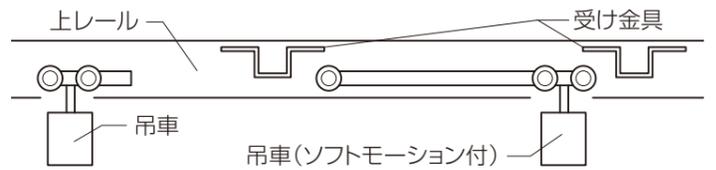


④上レールにソフトモーション受け金具を固定ねじ(低頭小ねじM3×12)と受け金具裏板を使用して固定します。

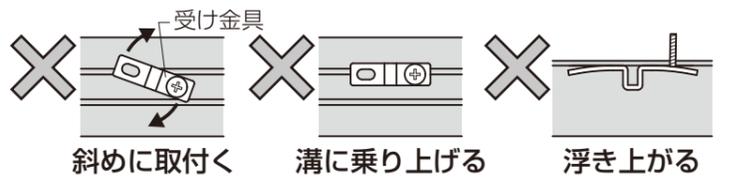


**お願い**

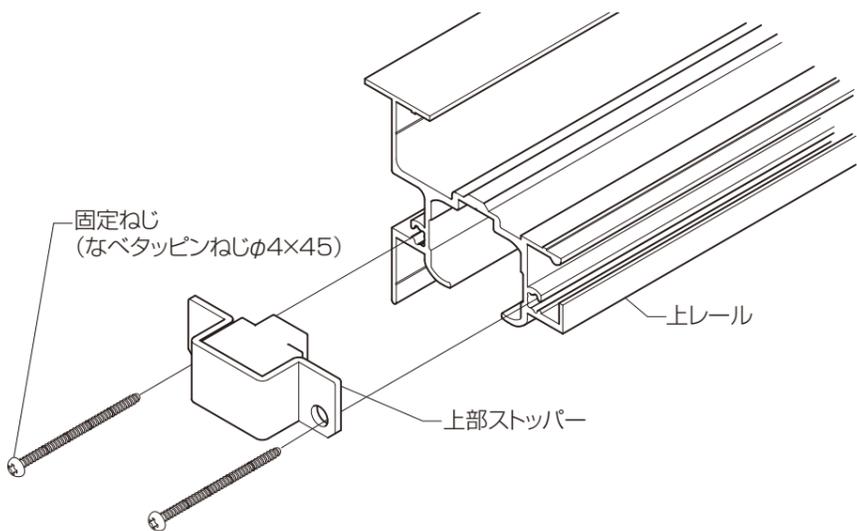
※吊車(ソフトモーション付)は2個の受け金具の間に来るように配置します。



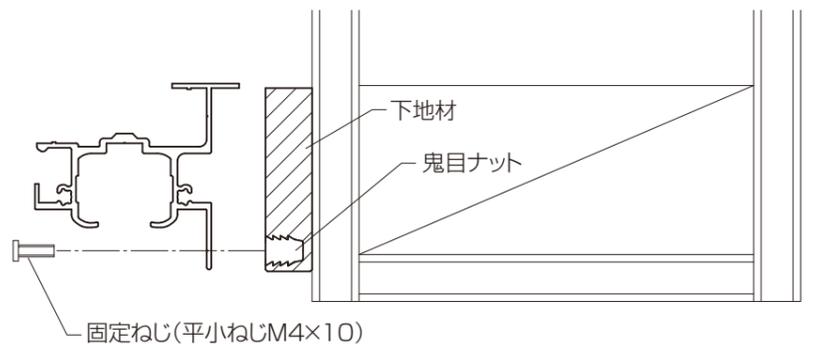
※完全に固定されるまで、上レールにしっかりと固定してください。ソフトモーションの作動不良の原因になります。



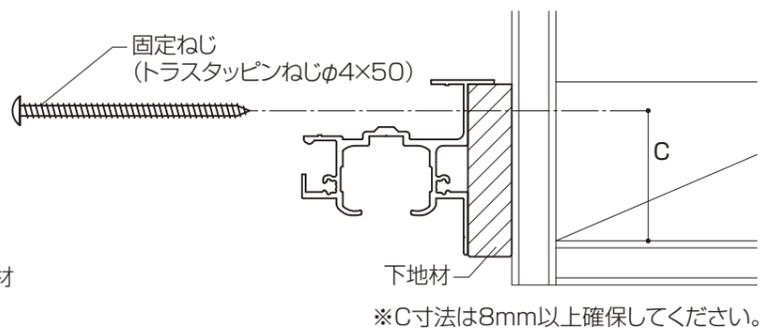
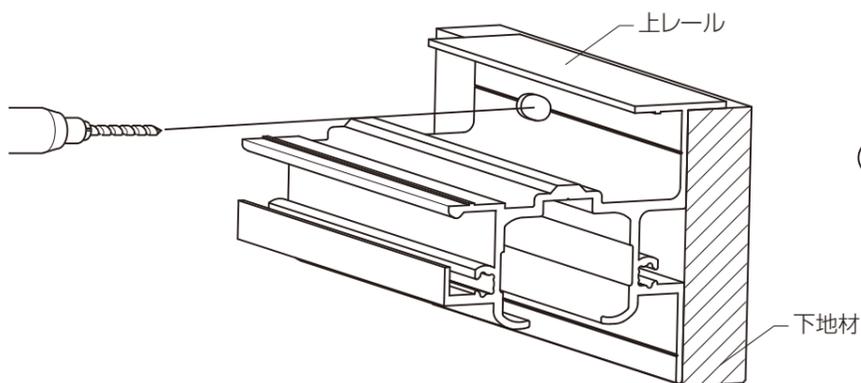
⑤上レール両端に上部ストッパーを同梱の固定ねじ(なべタッピンねじφ4×45)で取付けます。



⑥上レールを下地材に取付け済みの鬼目ナット(3カ所)に対して同梱の固定ねじ(平小ねじM4×10)で取付けます。

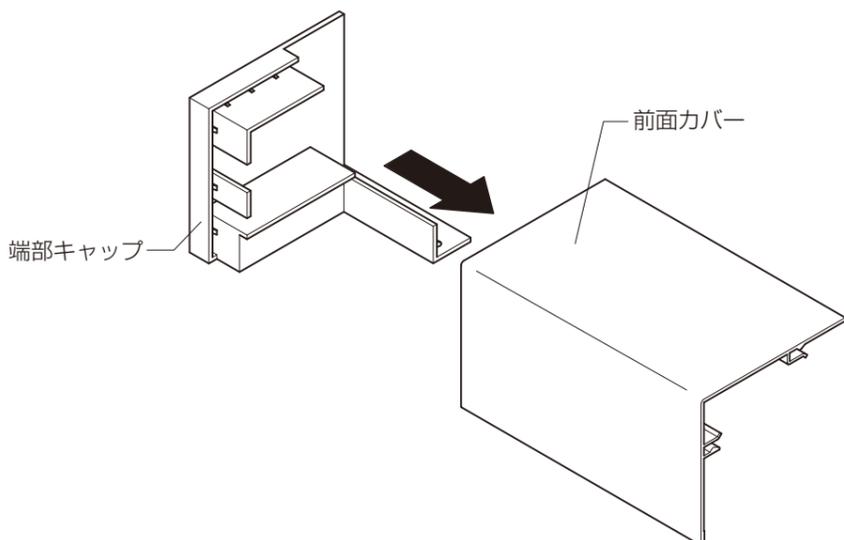


⑦上レールを完全に固定します。下地材に上レールの上側固定ねじの位置でφ3のドリルを使用し下穴をあけ、同梱の固定ねじ(φ4×50トラスタッピンねじ)で固定してください。



**2 前面カバーの取付け**

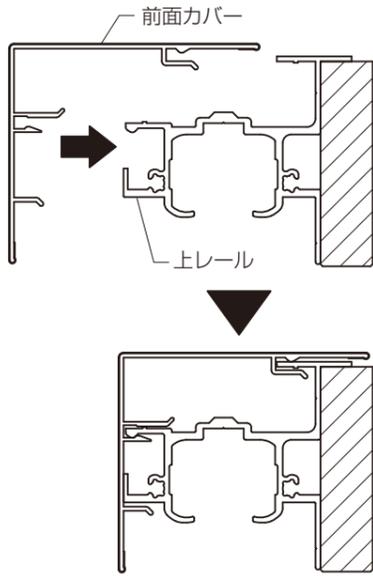
①前面カバーの両端部に端部キャップをはめます。



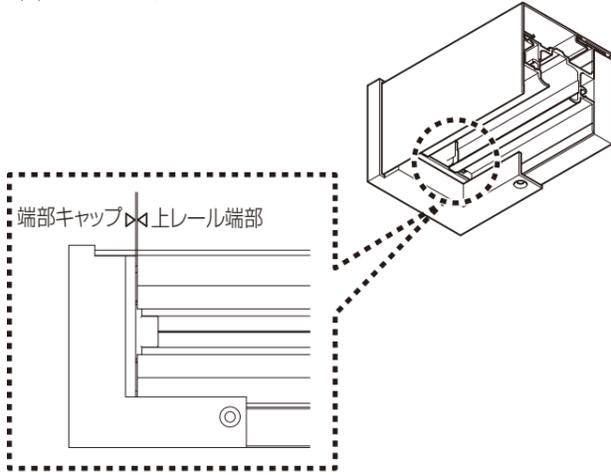
**お願い**

※端部キャップは奥まではめてください。

②下図のように上レールに前から前面カバーをはめ込みます。はまりにくい場合は、道具は使わず手でたたいてはめ込んでください。

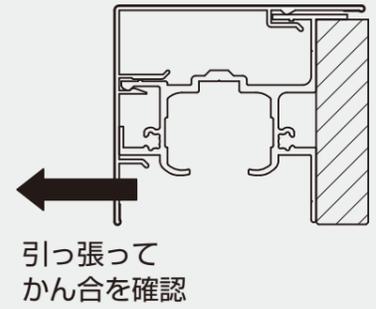


※横位置は上レール端部と端部キャップを見て合わせてください。

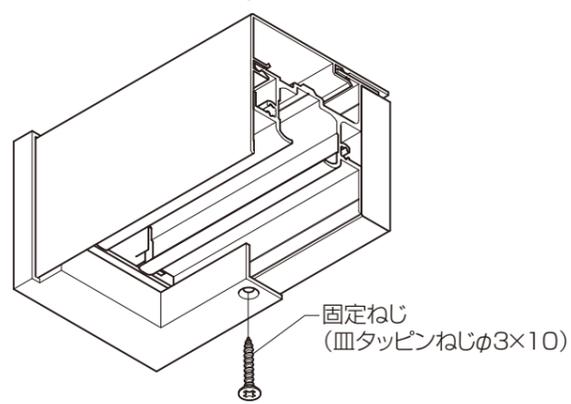
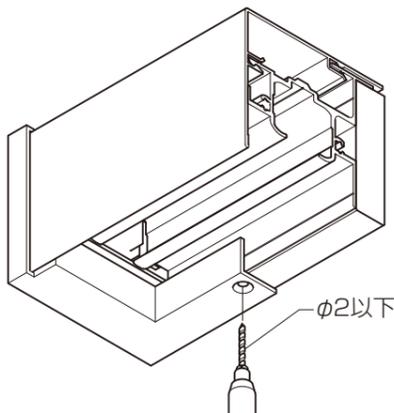


**注意**

●はめ込んだ後は、前面カバーを軽く引っ張り外れないことを確認してください。はまっていない場合、前面カバーの落下につながります。



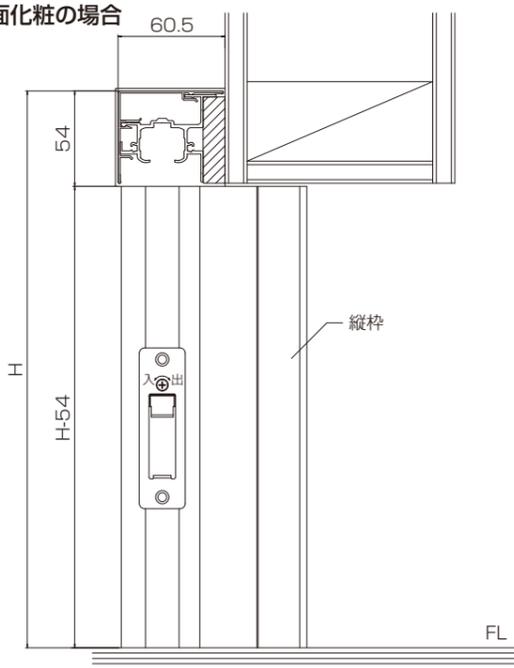
③端部キャップの下面開口に合わせて下地材にφ2以下の下穴をあけ、同梱ねじ(皿タッピンねじφ3×10)で固定します。



**3 縦枠の取付け**

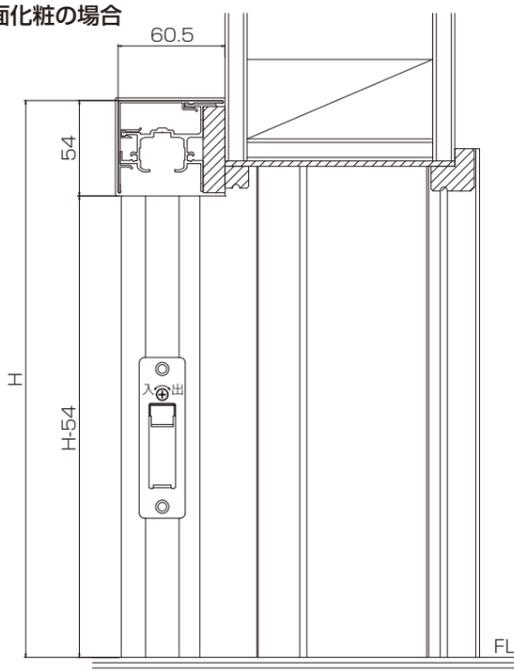
①現場の納まりにあわせて縦枠の切断加工します。

片面化粧の場合



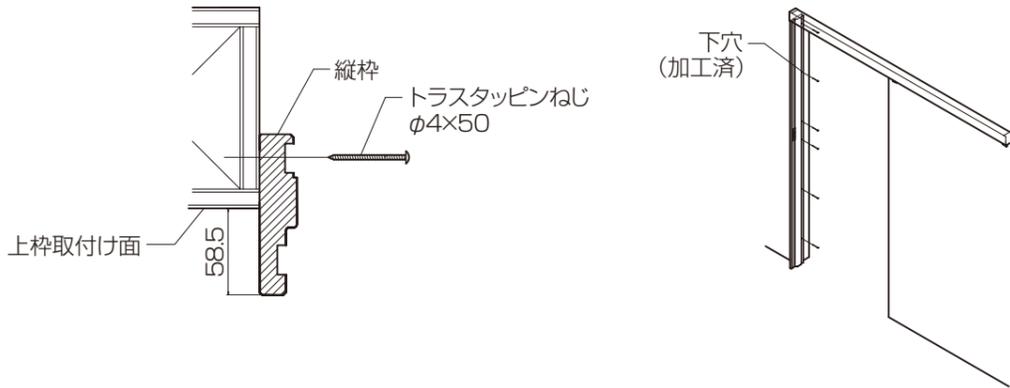
	調整部材なし納まり例	調整部材使用納まり例	化粧縁使用納まり例
縦断面			
加工寸法			

両面化粧の場合

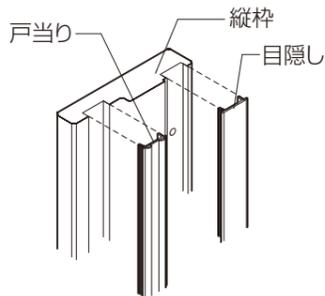


	調整部材なし納まり例	調整部材使用納まり例	化粧縁使用納まり例
縦断面			
加工寸法			

②上レールと床の内側に、上レール側を基準として躯体から 58.5mm 飛び出させた状態で、トラスタップピンねじφ4×50 6本で固定します。

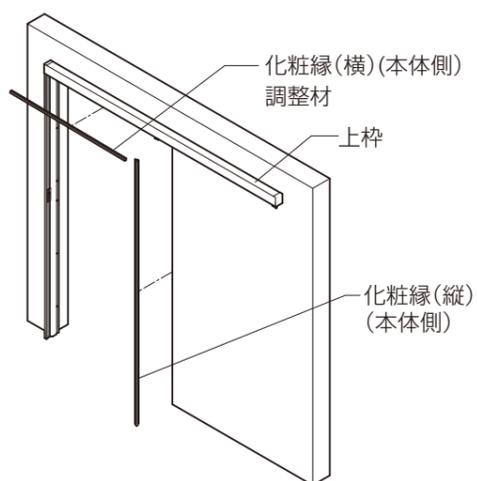


※縦枠の溝に戸当り、目隠しを接着剤（現場手配）で取付けます。



#### 4化粧縁の取付け

- ①化粧縁材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②化粧縁材の裏面に接着剤（現場手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。  
※かくし釘のピッチは、200～300mm です。  
※化粧縁材の取付け面は、接着剤がつくように仕上げてください。



**お願い**

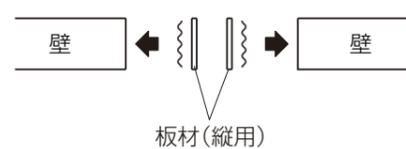
※縦枠は、垂直を出して取付けを行ってください。本体が縦枠の突起に当たり、閉まり切らなくなります。

※躯体間口と縦枠上部にすき間がある場合、部品セット同梱のパッキンを縦枠上部に貼り付けてください。

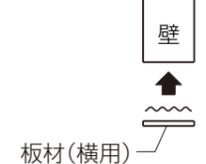
#### ■両面化粧縁の場合

※板材を開口部に取付けた後、化粧縁材を取付けてください。  
※板材の開口部への取付けは、裏面(〜面)に接着剤を塗布して固定してください。また、板材への化粧縁材の固定用接着剤は、同梱のポリネートチューブを使用してください。

##### ●横断面図

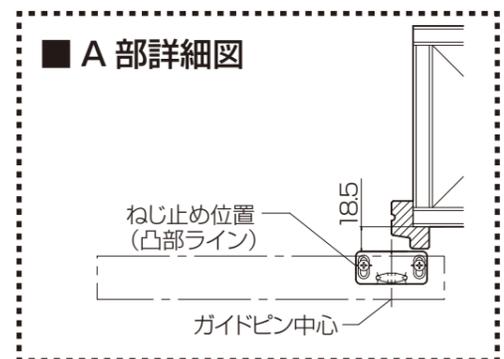
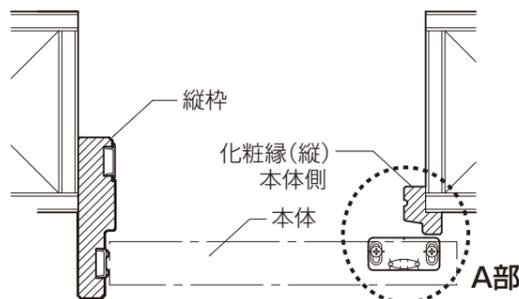


##### ●縦断面図

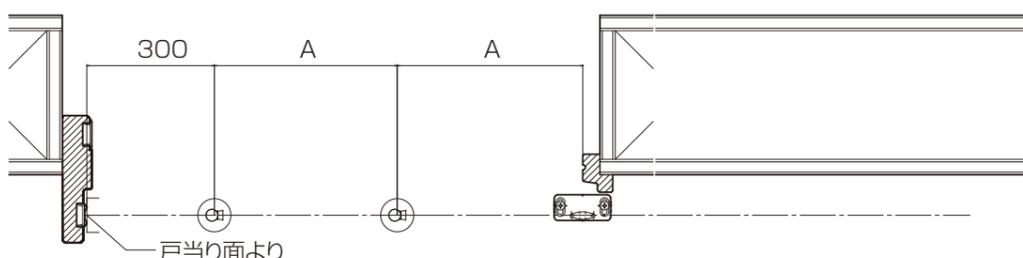


#### 5ガイドピンの取付け

- ①固定ガイドピンを取付けてください。
- 固定ガイドピンを枠に同梱のねじ（皿タップピンねじφ3.5×20）で固定します。  
※本体の開閉操作に影響が出ますので、必ずA部詳細図を参照してください。
- 図の位置および、向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴（2カ所）の凸部（ライン）位置にねじ止めしてください。



- ②埋込みガイドピンの位置出しをしてください。  
下図の位置にガイドピンの位置出しをしてください。  
※位置のズレは開閉方向で±10mm以下、本体の面方向で±2mm以下で位置出しをしてください。  
ズレが大きい場合、開閉時に本体がピンから外れる場合があります。



#### ●サイズ別ガイドピン取付け位置(A寸法) (単位:mm)

呼称	W	DW	A寸法
W20	1982	1038	352
W22	2182	1138	402
W26	2582	1338	502
特注	W	(W+94)/2	(W-574)/4

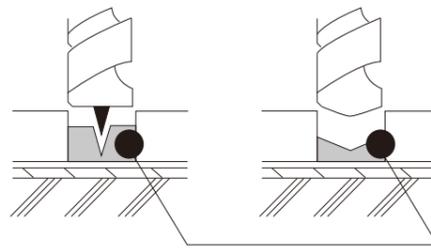
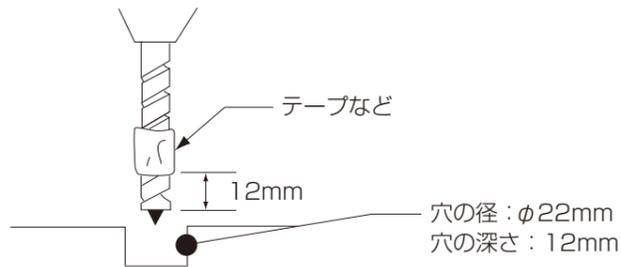
③埋込みガイドピンの位置にドリル(φ22)で穴を開けてください。

※ドリルの穴の深さの位置にテープを巻き目印とすると確実に12mm深さの穴をあけることができます。

※穴の深さが不足していると埋込みガイドピンベースが最後まで入らず走行性が悪くなります。

※穴をあけた後、バリ、切粉を取り除いてください。

※穴をあける際は床に対してドリルを垂直にしてください。本体開閉時の走行性が悪くなるおそれがあります。

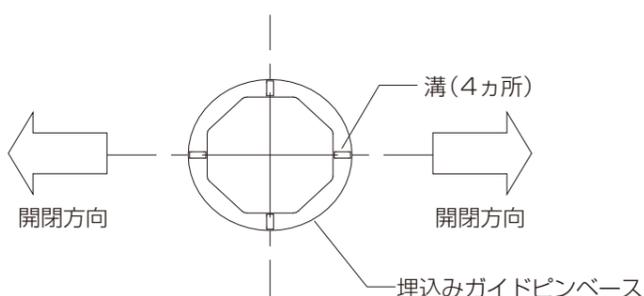


※フローリングが直貼の場合は穴を途中まであけ、丸のみなどで削って仕上げてください。

④埋込みガイドピンベースを部品のつば部の溝が本体の走行方向に並行、または垂直になるように穴にはめ込んでください。

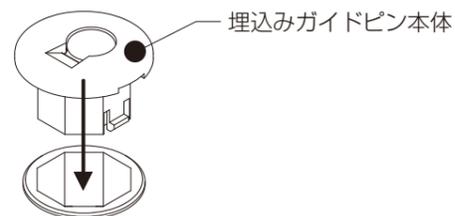
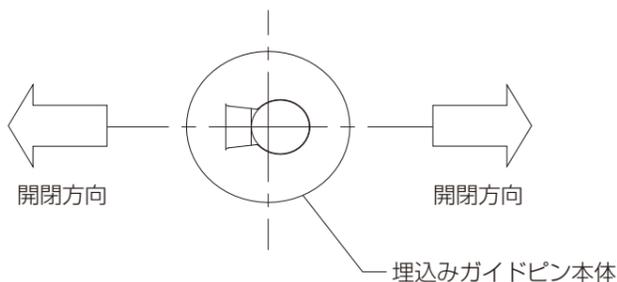
※直接部品をたたかず、あて木などを使用してください。床にキズがついたり部品が破損するおそれがあります。

※確実に埋込みガイドピンベースがはまっていることを確認してください。



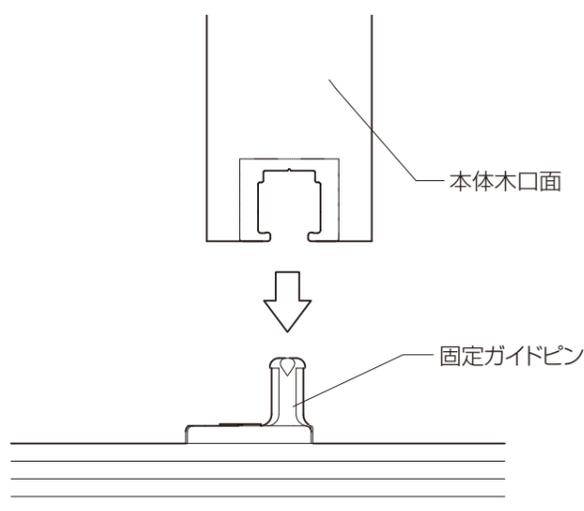
⑤埋込みガイドピンベースにガイドピン本体を図のようにカチッと音がするまで押込んでください。

※本体の吊込み後にピンの位置調整をします。本体吊込み後に、ガイドピン本体を取付ける場合は紛失に注意してください。

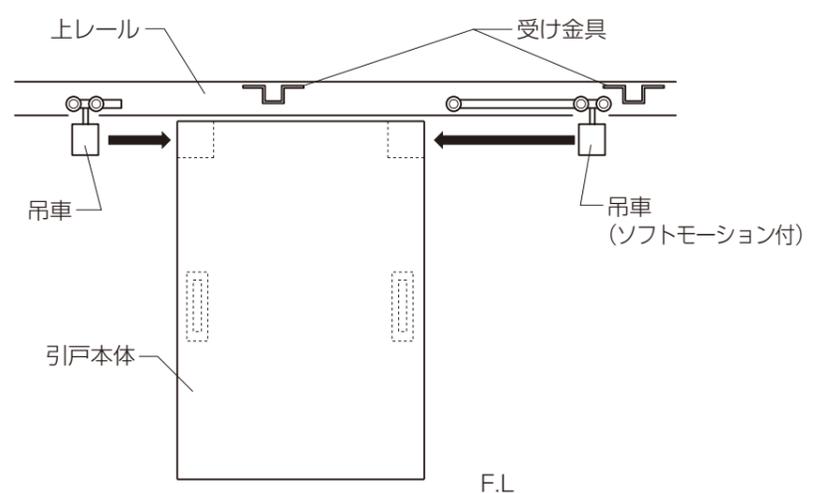


## 6 本体の吊込み

①本体を持上げて、本体下部の溝にガイドピンを入れます。



②片側ずつ吊車を本体に水平に押し込むと、ワンタッチで取付けられます。  
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。



※本体が吊込みにくい場合は、前面カバーを一度取外し、その状態で吊込みを行ってください。(■本体の調整5前面カバーの取外し方法参照)

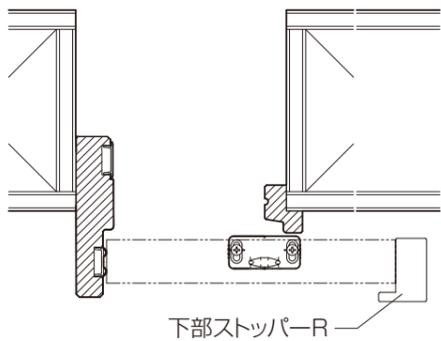
### ▲ 注意

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押し込みがたりないと、本体が脱落するおそれがあります。

## 7 部品の取付け

### ■下部ストッパーの取付け

- 下部ストッパーを同梱のねじ(バインドタッピンねじφ4×30)で固定します。  
※本体を開閉した状態で位置出しをするので、本体の建付け調整後に取付けてください。  
※下部ストッパーは片側(縦枠の逆側)のみ取付けてください。

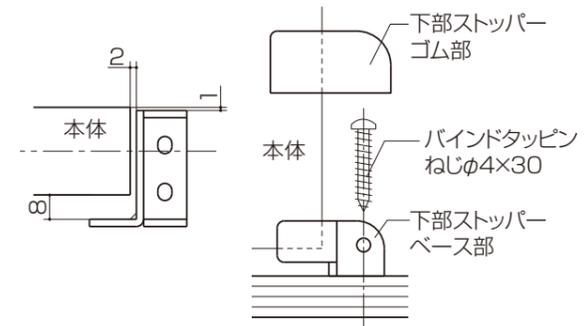


#### お願い

※吊車が上部ストッパー(ゴム部)に当たった状態で、下部ストッパーの位置出しをしてください。上部・下部のストッパーの位置がずれると、上レールが変形するおそれがあります。

### ■取付け詳細

※下部ストッパーベース部を床面に取付け後、下部ストッパーゴム部をベース部にかぶせます。

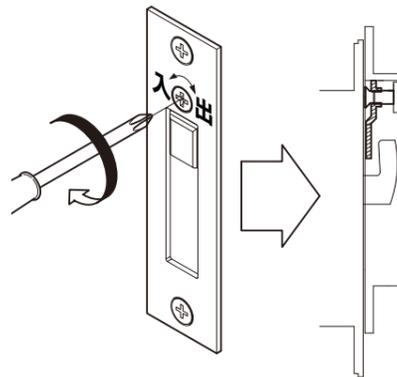
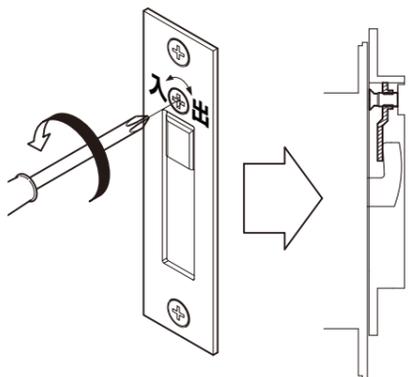


### ■錠の取付け

別梱の錠セット同梱の取付け説明書をご確認ください。

### ■引戸錠のかかり調整

- 引戸錠受けの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。
- 本体と引戸錠のすき間が大きい場合  
調整ねじを左に回して調整してください。
- 錠がかかりにくい場合  
調整ねじを右に回して調整してください。

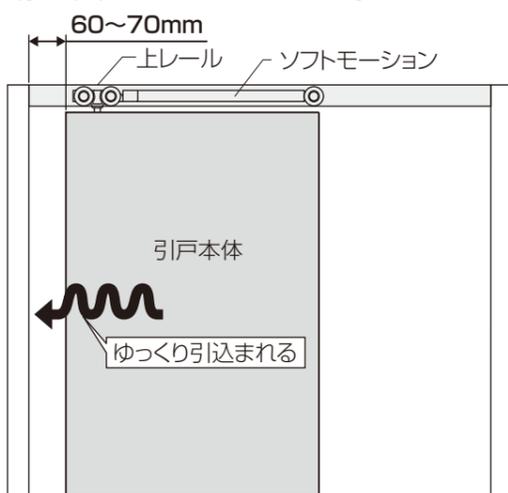


### ■バーハンドルの取付け

バーハンドルの取付けについては別梱のバーハンドルセットに同梱の取付け説明書をご確認ください。また、バーハンドルに同梱のドアストッパーは使用しません。

## 8 ソフトモーションの動作確認

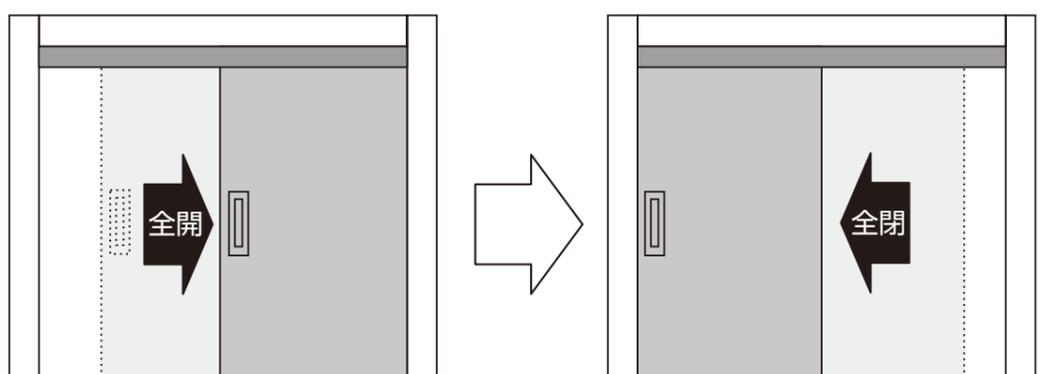
- 本体を停止位置より60~70mm動かして、ゆっくりと引き込まれるか確認してください。



### ■ソフトモーション機構の自動復帰方法

※本体を吊り込んでもソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。

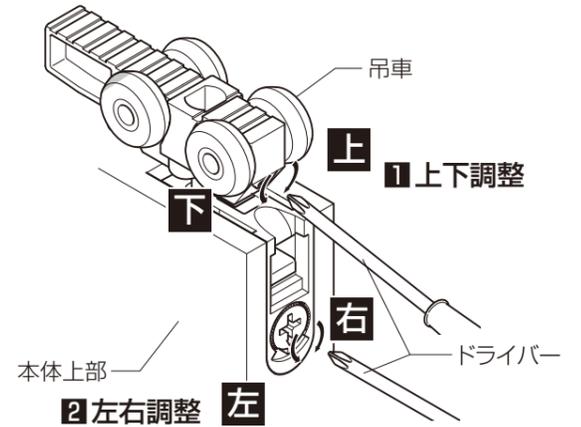
- ①本体を全開してください。
  - ②本体を全閉してください。
  - ③①、②を1~2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。
- ※必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。ソフトモーション機構復帰時に「カチッ」と手応えを感じます。
- ※ソフトモーション機構復帰後は本体を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。



## ■本体の調整

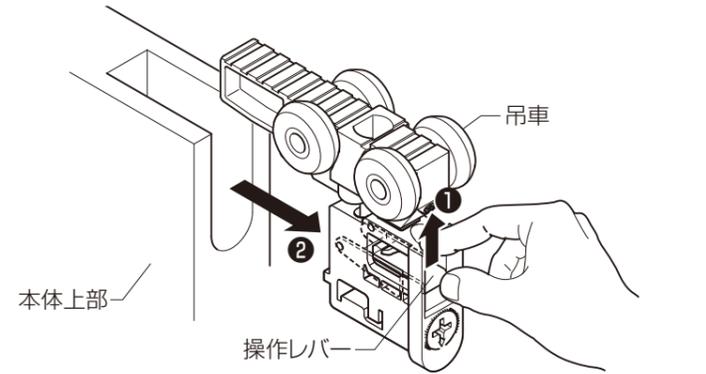
### 1 上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

- プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mm が標準です。
- ※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げ過ぎないでください。



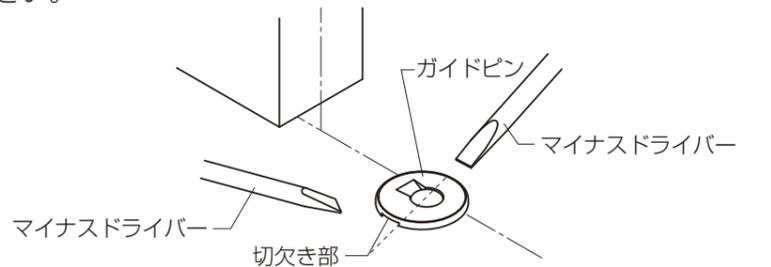
### 2 左右調整(調整幅±2mm)

- 左右調整は片引きの場合、中縦枠と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ 9mm)に実施してください。引違いの場合、本体同士のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ 7mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。
- ※左右調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。



### 3 本体の取外し方法

- 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。
- ※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押上げながら引抜いてください。

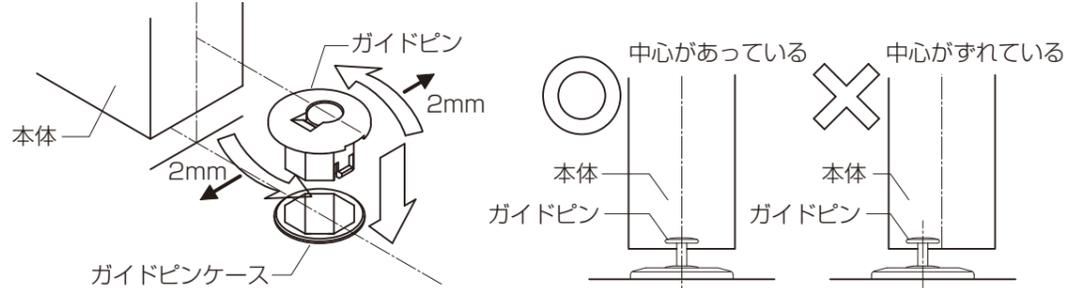


### 4 ガイドピン位置前後調整(調整幅4mm)

- 固定ガイドピンを切欠き部(2カ所)にマイナスドライバーを同時に差込んで外してください。
- ※切欠き部1カ所だけで外すと、製品が変形するおそれがあります。
- ※床にキズがつかないようにマイナスドライバーの下にあて布をして外してください。

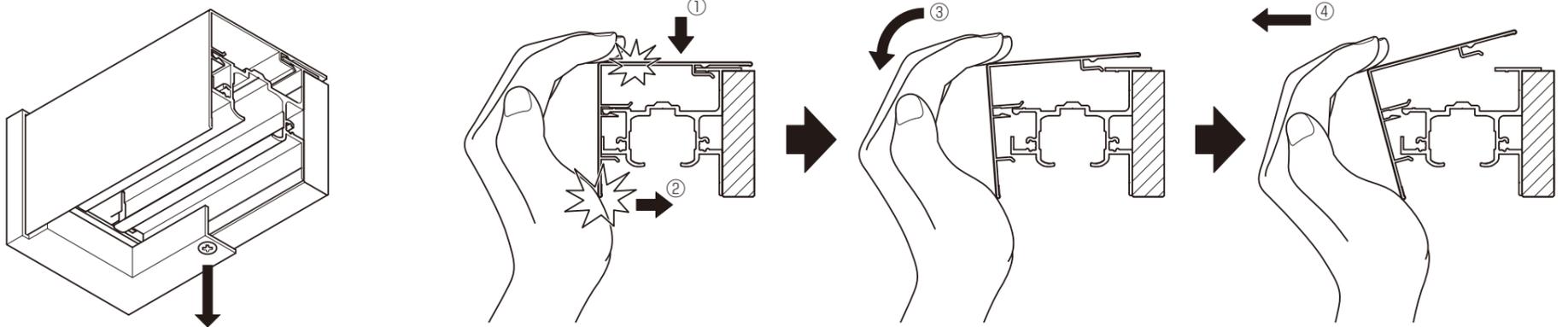
- 本体が静止していることを確認し、本体の中心線上にガイドピンの先端がくるようにガイドピンをまわして位置をあわせてください。
- ※中心のズレは 2mm 以下に調整してください。
- ※中心がずれていると、可動間仕切り開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。
- ※ガイドピンケース内部、ガイドピン本体にゴミなどが入り込んでいる場合はきれいに取り除いてください。

- 位置があったらガイドピンをガイドピンケースへ最後まで押込んでください。

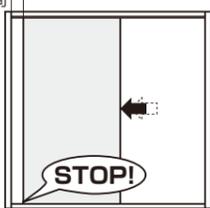
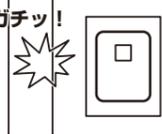
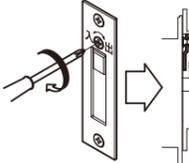
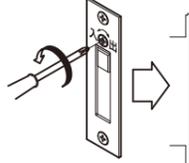


### 5 前面カバーの取外し方法

- ①端部キャップの下面ねじを外します。
- ②前面カバーを下図のように力を加えながら外します。



### 6 異常時の対処方法

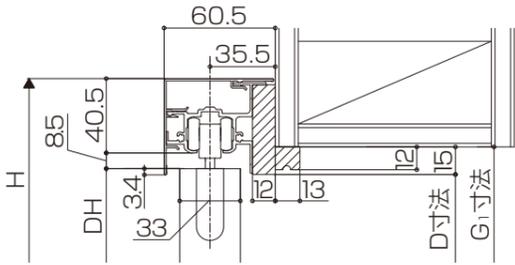
現象	チェックポイント	対処方法
閉まりきらない すき間 	●枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている	許容範囲内となるように再施工してください。
鍵がかからない ガチッ! 	●ストライク調整が不適當	ストライク調整ねじを右に回してください。 
鍵のかかりが甘い (縦枠と本体戸先にすき間が開く) 	●ストライク調整が不適當	ストライク調整ねじを左に回してください。 

■納まり図

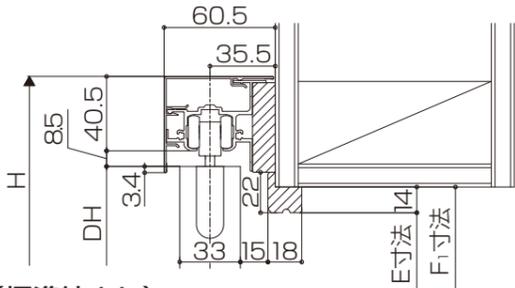
■化粧縁片面セット

●縦断面図

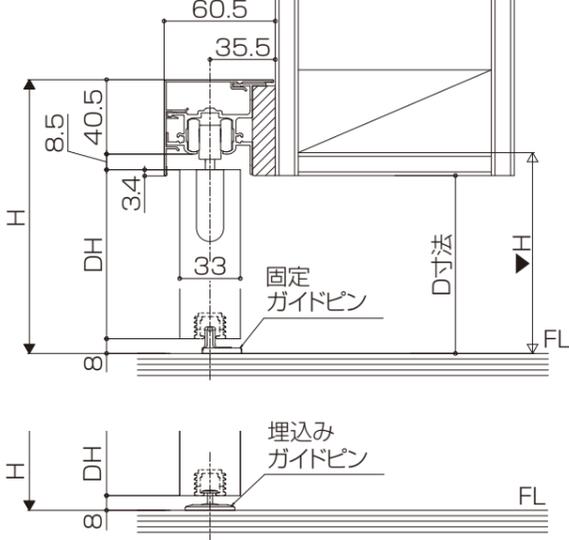
(上部調整材納まり)



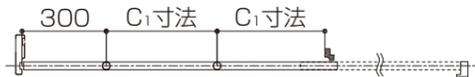
(上部化粧縁納まり)



(標準納まり)

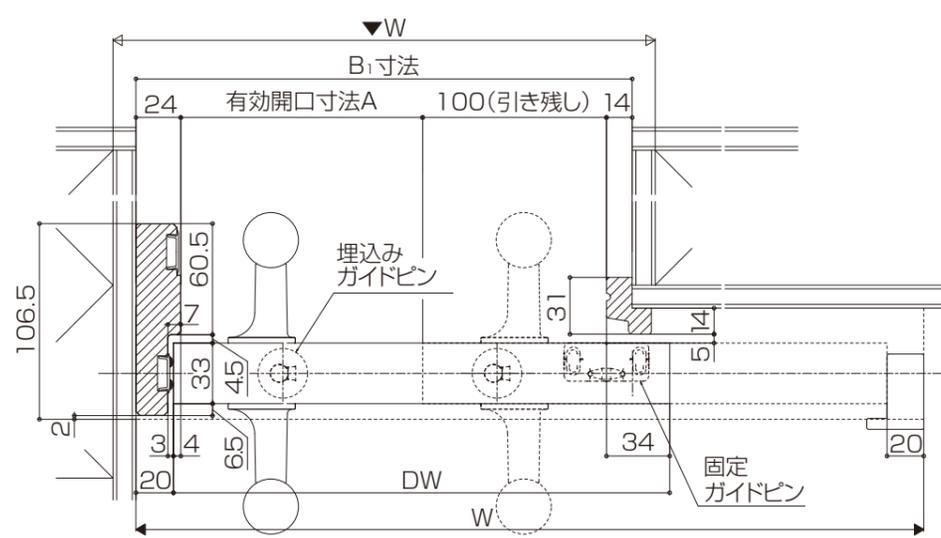


埋込みガイドピン配置図

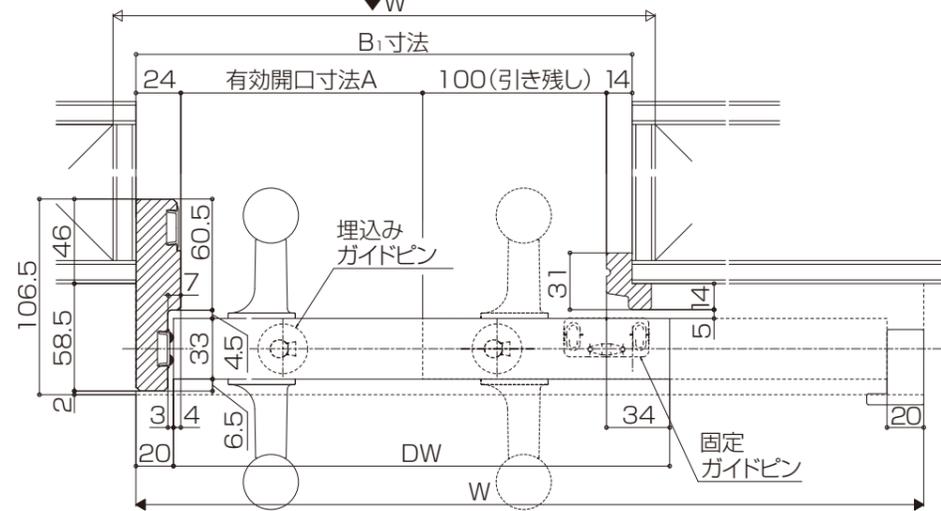


●横断面図

(入隅納まり)



(平入り納まり)



※ この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

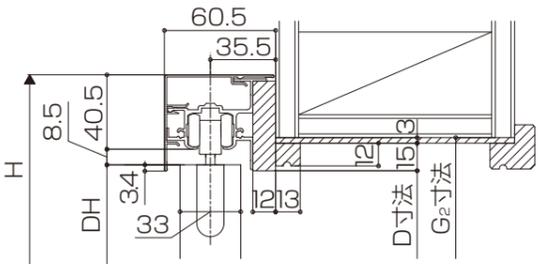
W呼称(枠外寸法)	DW	A寸法	B <sub>1</sub> 寸法	C寸法
W20(1982)	1038	900	1038	352
W22(2182)	1138	1000	1138	402
W26(2582)	1338	1200	1338	502
特注	(W+94)/2	(W-182)/2	(W+94)/2	(W-574)/4

H呼称(枠外寸法)	D寸法	E寸法	F <sub>1</sub> 寸法	G <sub>1</sub> 寸法
H20(2030)	1978	1956	1970	1993
特注	H-52	H-74	H-60	H-37

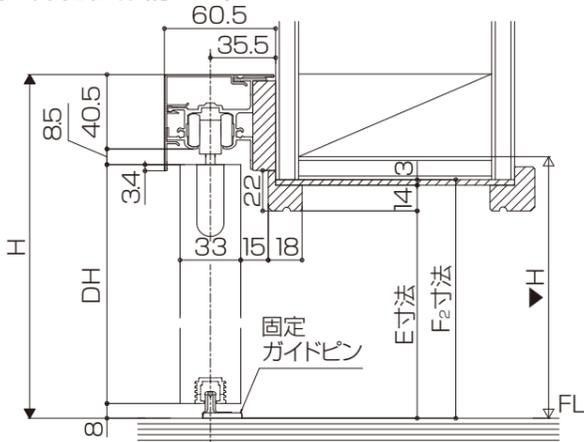
■化粧縁両面セット

●縦断面図

(上部調整材納まり)



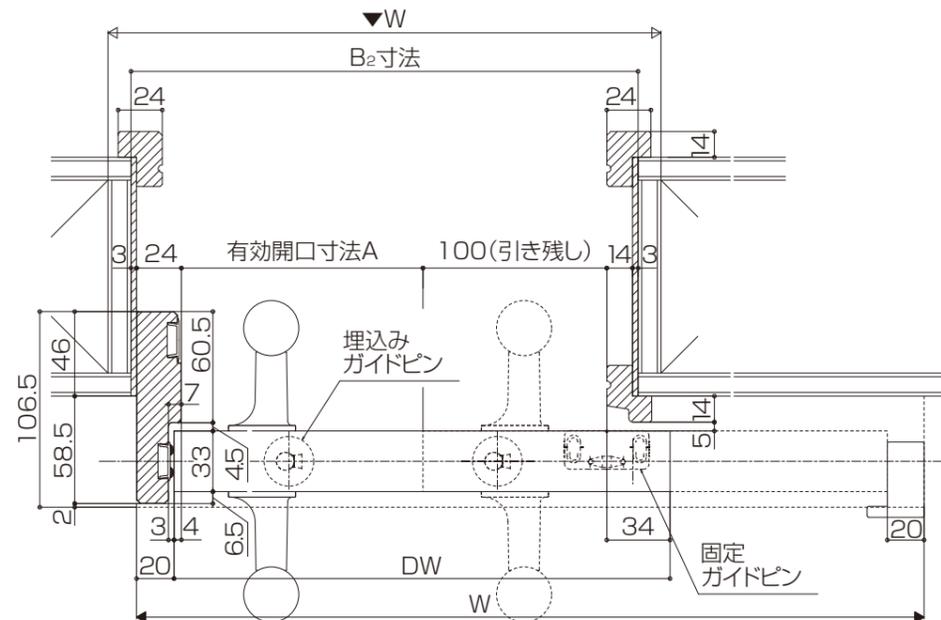
(上部化粧縁納まり)



埋込みガイドピン配置図



●横断面図



※ この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

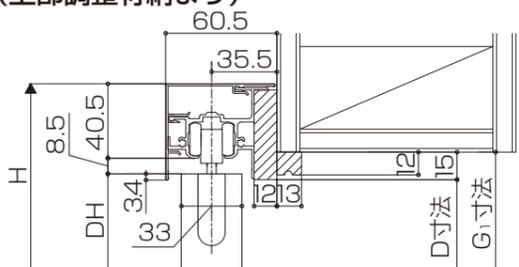
W呼称(枠外寸法)	DW	A寸法	B <sub>2</sub> 寸法	C寸法
W20(1982)	1038	900	1044	352
W22(2182)	1138	1000	1144	402
W26(2582)	1338	1200	1344	502
特注	(W+94)/2	(W-182)/2	(W+106)/2	(W-574)/4

H呼称(枠外寸法)	D寸法	E寸法	F <sub>2</sub> 寸法	G <sub>2</sub> 寸法
H20(2030)	1978	1956	1973	1996
特注	H-52	H-74	H-57	H-34

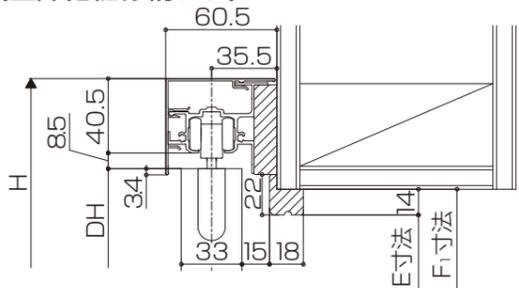
■化粧縁片面セット(美和FN錠の場合)

●縦断面図

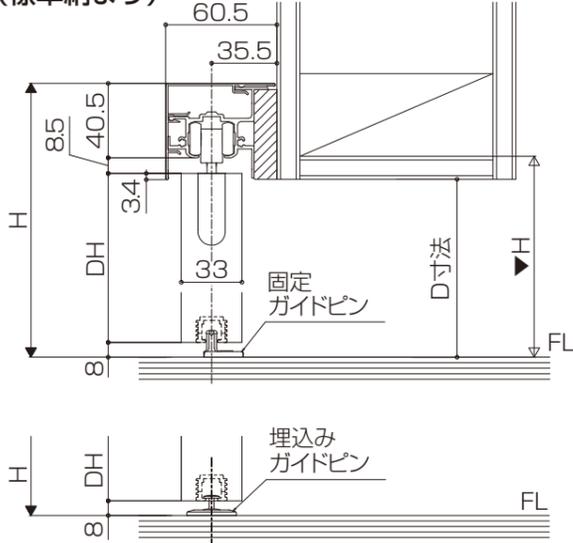
(上部調整材納まり)



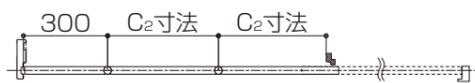
(上部化粧縁納まり)



(標準納まり)

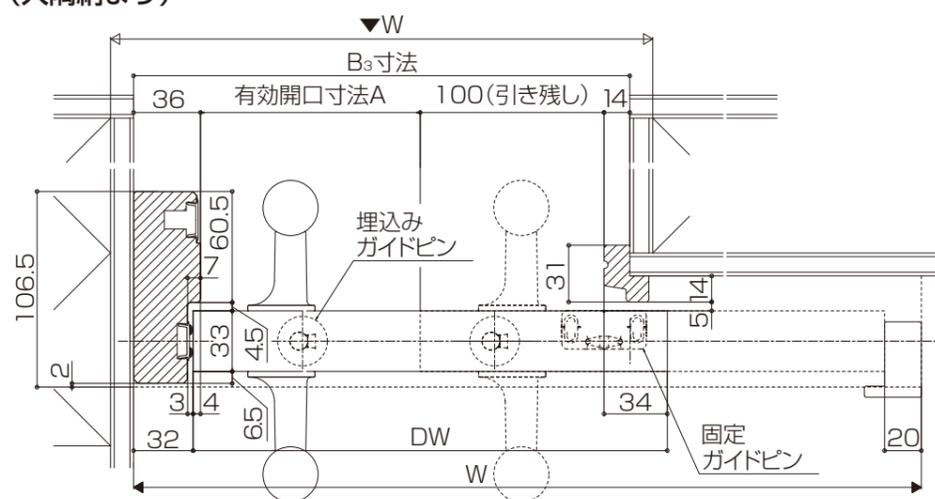


埋込みガイドピン配置図

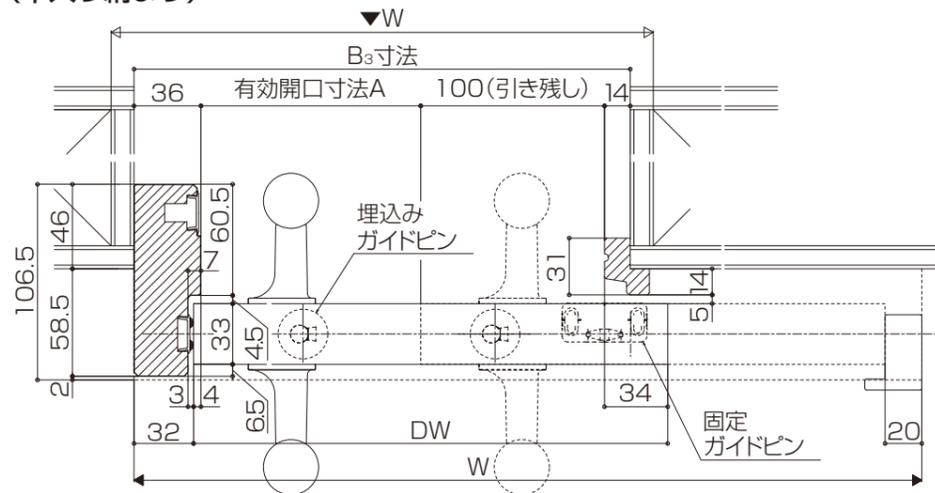


●横断面図

(入隅納まり)



(平入り納まり)



※ この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

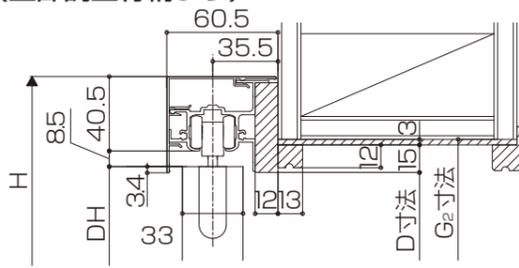
W呼称(枠外寸法)	DW	A寸法	B3寸法	C2寸法
W20(1994)	1038	900	1050	352
W22(2194)	1138	1000	1150	402
W26(2594)	1338	1200	1350	502
特注	$(W+82)/2$	$(W-194)/2$	$(W+106)/2$	$(W-586)/4$

H呼称(枠外寸法)	D寸法	E寸法	F1寸法	G1寸法
H20(2030)	1978	1956	1970	1993
特注	H-52	H-74	H-60	H-37

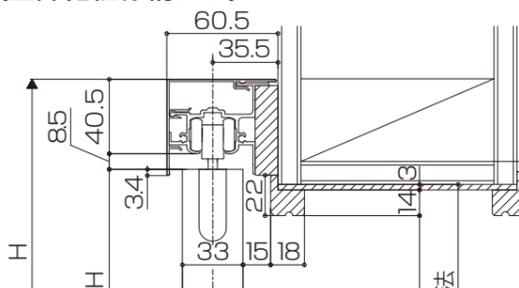
■化粧縁両面セット(美和FN錠の場合)

●縦断面図

(上部調整材納まり)



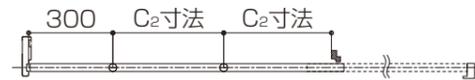
(上部化粧縁納まり)



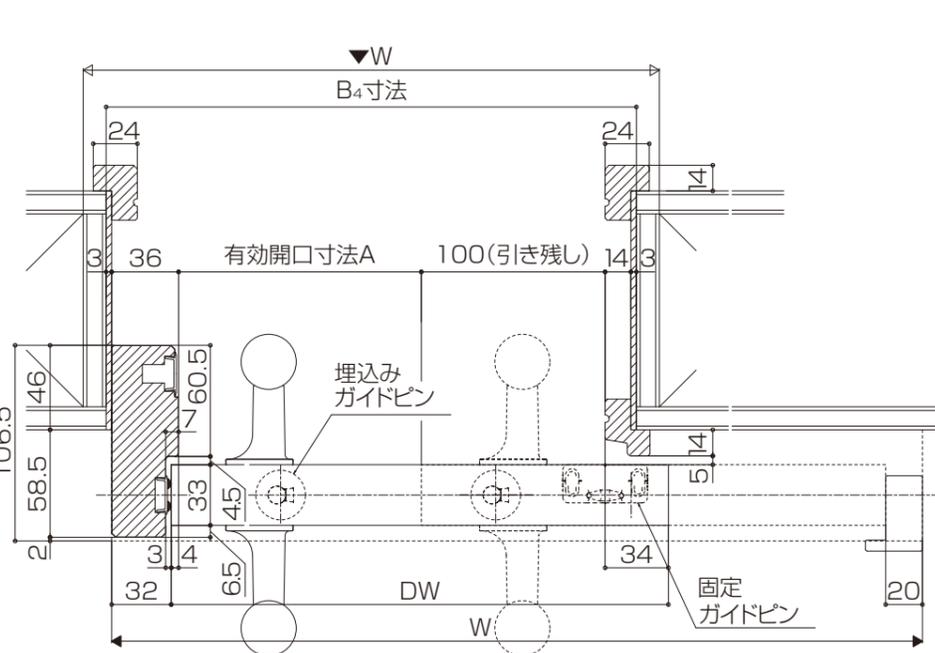
(標準納まり)



埋込みガイドピン配置図



●横断面図



※ この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	DW	A寸法	B4寸法	C2寸法
W20(1994)	1038	900	1056	352
W22(2194)	1138	1000	1156	402
W26(2594)	1338	1200	1356	502
特注	$(W+82)/2$	$(W-194)/2$	$(W+118)/2$	$(W-586)/4$

H呼称(枠外寸法)	D寸法	E寸法	F2寸法	G2寸法
H20(2030)	1978	1956	1973	1996
特注	H-52	H-74	H-57	H-34